

# 「何もしない宣言」か

「出生率が上がれば子ども予算の( )倍増が実現される」—木原誠二官房副長官が報道番組(21日)で語った「異次元の少子化対策」の子育て予算「倍増」の中身です。松野博一官房長官も24日の会見で「政府の説明と齟齬(そご)がある」とは考えていない」と追認。子どもが増えれば児童手当などの予算が増えるのは当たり前、結局は「何もしない宣言」なのかと批判の声が上がっています。

番組で木原氏は、不明確な政府発言について司会者から「何を基準にするかを決めず、倍増とだけ言っただことなる」と詰められ、「( )は( )の期限

## 木原官房副長官「子ども増えれば予算倍増」

を区切っていない」などと述べられました。さらに「効果がなければ、倍増といってもいつまでたってもできない。効果のない予算をずっと使い続けることだもなにかねない」と述べ、予算の増額どころか削減までほのめかしました。

「子どもが増えれば予算が倍増」は、子どもを安心して産み育てる社会づくりのための予算「倍増」とは本質が異なります。そうではなく、なぜ子どもを増やすことができないのか。国民一人ひとりの切実な声を無視したままでは、いつまでたっても少子化問題は解決しません。

(聡)